

技術部報告集発刊に寄せて

技術部長 佐藤 一彦

教室系技術職員の職務は多岐にわたっています。また勤務の態様も学生や教官と接する機会が少ない一人の職場から、講座や研究室に配属され、教官や学生と日常的に接しながら業務を遂行する職場まで多様です。しかし職務や勤務態様に差異はあっても、共通しているのは本学の教育・研究にとって一人として欠くことのできない専門技術者であるということです。

今年度嬉しいニュースの一つは、国立大学協会が教室系技術職員の大学における位置付けを一層明確にし、給与待遇面でも改善を図るために専門行政職俸給表の適用基準を決定したことです。永らく続いた同協会第4常置委員会の労を多としますとともに、文部省をはじめ関係機関が速やかに専門行政職への移行を実現するよう望むものです。

さて本学に技術部が組織されて3年を経ようとしています。今年度は学内の教官の協力を得て、3日間にわたる専門研修を実施することができました。研修のプログラムを作成するに際しては、技術職員の希望に沿うように配慮し、また実習を伴う研修ではそれぞれ関係分野の技術職員の協力もあって、充実した研修となりました。今年度は19名が研修を済ませましたが、来年度も残りの技術職員を対象に同じプログラムの研修を予定しています。また学外での研修への派遣も順調で、今年度は道内4名、道外11名を数え、研修の成果が報告されています。

研修の成果の一部はすでに毎日の業務に反映されていますが、これを技術部の組織的力量に転じるには交流と普及が必要です。今度3回目を迎える技術報告会はその重要な一環です。今年度は技術報告が4件と技術研修の報告が6件予定されています。また報告は口頭による発表に留めず、さらに技術研修5件も加えて、本報告集として刊行することになりました。

学内各位には本報告に目を通され、ご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後に、技術部の業務にご理解とご協力をいただいているすべての方々に感謝申し上げます。